

26.研究発表

湖東圏域におけるアドバンスケアプランニングの普及啓発について

奥村 佳世

第50回 滋賀県公衆衛生学会

湖東圏域におけるアドバンスケアプランニングの普及啓発について

○奥村 佳世、佐谷 裕子、切手 俊弘（湖東健康福祉事務所）

一岡 慶紀、永山 夕水、田中 和子、杉本 美帆、前川 真衣香、上川 寿子
西川 智重子、陌間 雅美、田島 明美（湖東圏域 ACP プロジェクトメンバー）

はじめに

平成 30 年 3 月に「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」の改定がなされアドバンスケアプランニング（ACP）の概念を盛り込んだ意思決定支援が求められている。当圏域では平成 30 年度より「湖東地域人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発プロジェクト会議」を立ち上げ、当圏域における ACP の普及啓発に向けて協議している。今回関係者向けに意識調査を実施したので報告する。

関係者向けの意識調査

対象者：病院医師・看護師、診療所医師、訪問看護師、介護支援専門員、地域包括支援センター職員

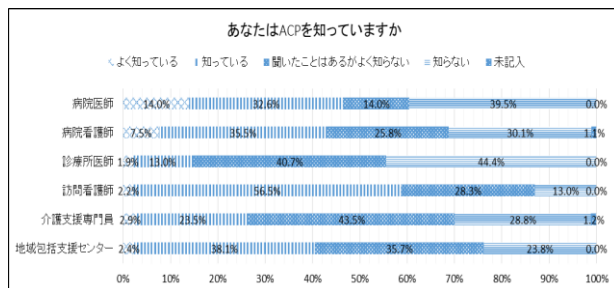
調査時期：令和元年 9 月下旬～10 月

調査方法：発送および回収は郵送もしくは使送にて自記式質問紙調査を実施。

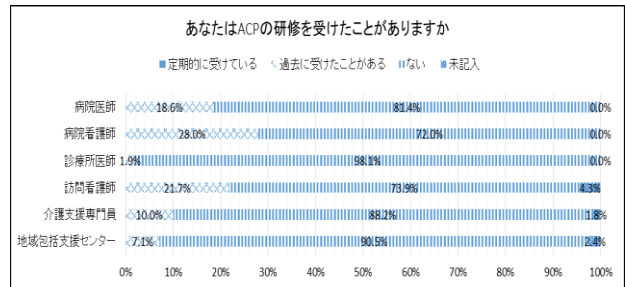
調査内容：平成 30 年 3 月「人生の最終段階における医療に関する意識調査」を参考に①ACP の認知度、実施状況②本人との話合いの実施状況③情報の共有方法④医療や療養における支援の状況⑤意思決定支援にかかる教育・研修の機会⑥意思決定支援にかかる考えの 6 つの項目で調査を実施した。

調査結果

全体の回収率は 74.4%（448 名/602 名）であった。「ACP を知っていますか」の問いでは、「よく知っている」は 4.7%、「知っている」は 30.4%、「聞いたことはあるがよく知らない」は 34.4%、「知らない」は 29.9%だった。



また、現在死が近い利用者（患者）の医療・療養について本人もしくは家族等と十分な話し合いを行っていますか」という問いは「十分行っている」が 12.7%、「一応行っている」が 47.5%、「どちらともいえない」が 14.3%、「ほとんど行っていない」が 9.8%、「人生の最終段階に関わっていない」が 15.2%だった。また「ACP の研修を受けたことがありますか」という問いに対して「ない」が 84.2%だった。



考察

ACP の認知度は病院医師・看護師、訪問看護師では高く、診療所医師、介護支援専門員、地域包括支援センターでは低い状況だった。しかし 6 割の医療介護関係者は現在の支援で本人もしくは家族等と話し合っており、実際の活動が ACP の概念を踏まえた実践であるかが疑問である。また研修を受けていない医療介護関係者が 8 割と、学ぶ機会が少ないこともわかった。この結果を受け、ACP の普及啓発を推進する第 1 歩として湖東圏域で開催されている「ことう地域チームケア研究会」で ACP プロジェクトメンバーによる寸劇を行った。多職種 106 名が参加され ACP に対し関心を持ってもらう機会となった。

まとめ

湖東圏域において ACP の普及啓発は始まったばかりであり、今後の取り組みとしてさらに幅広い医療介護関係者に向けた研修会を開催するとともに住民の啓発についても検討していきたい。